

院長ひとり言



00-00-01 — はじめに —

新生児や乳幼児および小児の病気の治療と共に育児の相談などで、お母さん方や子ども達と付き合い始めていつの間にか 50 年を超えてしまいました。

小児科という科は、病気の治療だけでなく、赤ちゃんの時からその子の成長を家族と共に見守る事の出来る唯一の科です(しかし、多くの小児科の外来は、“いわゆる病気?”の治療で手一杯のようですが)。良きにつけ悪しきにつけ、親も子も時代と共に変化しています。長年、外来でお母さん方と話をし、子ども達と遊び(これも診療の一部と考えています=“子どもの状態を見る”)、「これで良いの?」とか「なぜそうなるの?」など気になることも多々あります。子どもの“**保護者(=子どもをずっと<保>護る人<者>)として**”の考え方を中心に、できるだけ例などを挙げ、分かりやすく書かせていただきます。「“ああ”しなさい。“こう”した方が良いよ。」などの、**結果のみを指導**は、子どもが相手では、なかなか根気が続きません。その結果、「ダメ。無理。しょうがないよね。」になってしまいます。各項目での余談などを読みながら、“なぜ?”・“どうして?”を理解して、**無理のない範囲で子育て**してもらえると“**ストレスが少なくなるかなあ~?**”と考え、余分なことも書かせてもらいます。時々、気にさわることや腹の立つことが書かれるかも知れません。しかし、あくまでも“ひとり言”と言うことでお許し願います。

2020年4月1日.

※ホームページ: “**ようこそ! 石川こどもクリニック**” <http://www7b.biglobe.jp/kodomo-clinic/>